

1 審議会名	上田市総合計画審議会（第3回福祉健康部会）
2 日時	令和元年12月19日 午後1時30分から午後3時50分まで
3 会場	ひとまちげんき健康プラザ上田 2階 第1会議室
4 出席者	宮之上孝司部会長、酒井真由子副部会長、飯島俊勝委員、熊井健二委員、小池純子委員、佐藤永寿子委員、高柳静委員、田畑裕康委員、鳥羽泰之委員、宮本恵美委員、母袋卓郎委員
5 市側出席者	近藤福祉部長、小林健康こども未来部長、浅野健康こども未来部参事、小坂福祉課長、堀内障がい者支援課長、藤沢高齢者介護課長、室賀健康推進課長、春原国保年金課長、宮沢保育課長、山賀子育て・子育て支援課長、中村市立産婦人科病院医事課長、西澤移住交流推進課縁づくり担当係長、櫻井福祉課生活支援担当係長、町田健康推進課保健予防担当係長、田中学校教育課学校教育担当係長、原政策企画課主査
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	1名 記者 なし
8 会議概要作成年月日	令和2年1月8日

## 協 議 事 項 等

1 開 会（福祉課長）
2 あいさつ（宮之上部会長）
3 議 事
（1）会議概要の確認について
○会議概要の内容について事務局から説明 特になし
（2）分野別意見聴取について
○意見聴取団体「チャレンジママプロジェクト」について事務局から紹介
○「意見・提言等シート」により、団体の活動内容、現状・課題、市の施策に対する意見・提言等を団体代表 澤路春代氏から発表
【活動内容】
・就園前の子を持つ家族のためのイベントの企画運営
・さなだ中央公民館「かるがもひろば」の講師
【現状・課題】
・月1回開催するイベントには毎回15～20組の親子が参加
・自然の中でそこにあるもので遊ぶ、工夫して遊ぶ、子どもの気づきに目をやり遊ぶ、そのような楽しさを知ってほしい。
・室内での遊びも親子で体を動かしてストレスを発散してほしい。
【市の施策に対する意見・提言等】
・豊かな自然の中にいることを感じながら子育てしてほしい。
・子育てを楽しむこと、子育てに向かい合うことへの支援を考えてほしい。
・公民館活動等の地域での世代間交流の場を考えてほしい。
○以降、質疑
（委員）団体の会員数は何人か。
（団体代表）団体のスタッフは9名。仕事を持ちながら活動しているメンバーが多い。
（委員）活動の頻度、内容はどうか。
（団体代表）月に1回、季節に応じた場所で親子一緒に参加できるイベントを開催している。5月から10月までは市内各所の公園で、11月から2月までは公民館等の室内で実施している。
（委員）子どもを預けてイベントに参加したいという親が増えている現状について説明があったが、そのことについて団体としてどう考えているか。

(団体代表) 子どもと離れる時間がほしいという親が増えていることに危機感を感じている。親子が一緒になって遊べるようにスタッフで話し合いながらイベント内容を決定している。

(委員) 15～20組の親子は毎回違う親子が参加するのか。複数回参加する親子はいるのか。

(団体代表) 基本的には違う親子が参加している。家から近い会場を選んで参加する親子や楽しいからという理由で複数回参加する親子がいる。

(委員) チャレンジマッププロジェクトの活動に対して市からの援助はあるのか。

(団体代表) 市と「上田市子育て家族応援事業実行委員会」を組織し、連携しながらイベントを開催しており、講師派遣などの人的な支援や開催経費に対する金銭的な支援がある。

(委員) 若い世代へイベント開催の広報はどのようにしているか。

(団体代表) 毎月発行されている「子育て支援センター通信」への掲載や、独自のチラシの作成のほか、フェイスブック、インスタグラムへ写真つきで毎回の活動内容を紹介したり開催告知を行ったりして周知している。

(委員) 世代間交流も大切な視点だと思うので、高齢者に向けたイベントの広報も考えてもらいたい。屋外のイベントでの安全確保について、どのような配慮をしているか。

(団体代表) スタッフが事前に会場の下見を行うほか、参加者が集合したところで会場の安全確認を行う、使用する道具に対する注意点を確認するなどしている。また、地域のボランティアの方にイベント時の託児などで協力してもらっている。

(委員) 毎回のイベントの活動時間と具体的な活動内容はどうか。

(団体代表) 基本的には10時から10時15分が受付で、10時30分から11時45分までが遊びの時間となっている。屋外のイベントでは、自然の中にあるものを使ったものづくりなど、屋内のイベントでは体を使った遊びを中心として活動している。

(委員) チャレンジマッププロジェクトで行っているイベントは、市で行っている子育てひろばとの棲み分けや連携はどうなっているか。

(団体代表) 市の子育てひろばは常設のものであり、イベントは単発のもので棲み分けはできている。

(委員) 公園の遊具ではなく自然にあるものを利用した遊びを推奨する方針は賛同するが、若い親に対して自然を活かした遊びの指導するようなことはしているのか。

(団体代表) 自然の見方や様々な遊び方を覚えて帰ってもらえるように、スタッフ同士で情報共有を図りながら、イベントの中で親子に話をしている。

(委員) 私自身もスタッフの一員であるが、以前は子どもを連れて参加していて、自然の中での遊びに共感し、子どもが大きくなってからスタッフに加わった経緯がある。

(団体代表) 委員のように元々は参加者であった方が、団体の活動に共感してスタッフになった例もある。そのようにして若い世代の親がスタッフに加わっているので、幅広い世代のスタッフが情報交換しながらチャレンジマッププロジェクトの活動を続けていきたい。

### (3) 「後期まちづくり計画」素案について

- ・「後期まちづくり計画策定シート」の見方について事務局から説明

- ・市長が公約として掲げた上田再構築プランを踏まえ、「子育て支援に関わる施策」を節から章に格上げすることについて事務局から説明

異議なし

- ・「後期まちづくり計画策定シート」により、節ごとに新計画の内容について事務局から説明

- ・以降、協議

#### ○4-1-1について

(委員) 「3. 現状と課題」の中の生活習慣病の項目について、糖尿病合併症で一番多い脳梗塞の予防啓発を加えてもらいたい。

(事務局) 脳梗塞について記述を加えることを検討する。

(委員) フレイルやサルコペニアがメディアで話題となっていて言葉も一般化してきているので、言葉の説明を含めて高齢者の筋力低下や栄養不足について、計画に入れてもらいたい。

(事務局) フレイル予防については、健康づくりと高齢者対策との両面があるので、どちらの節で記述するか検討したい。

(委員) 糖尿病が万病のもとであると理解したが、糖尿病を予防すれば健康になるということなの

か。以前は高血圧が病気の原因と言われて減塩が叫ばれてきたが、専門家から見て現状はどうなのか。

(委員) 糖尿病の罹患率が県下一であることから、糖尿病に着目した記述になっていると受け止めているが、高血圧、糖尿病、高脂血症それぞれ大きな課題であると思う。運動、食事それぞれの面での取り組みが重要である中で、どこに重点を置いて総合計画に記述するか検討が必要であると思う。

(事務局) 上田市は高血圧も大きな課題であり、今年度は減塩に向けた取り組みを実施している。生活習慣病予防として様々な施策を展開することすることは2表に記述してあるが、「3. 現状と課題」に高血圧等についても記述するよう検討したい。

(委員) 上田市独自の健康づくり事業として、長年インターバル速歩事業に取り組んできている中で、今後は科学的根拠に基づく新たな運動プログラムを検討するとあるが、市としてある程度一貫性を持った取り組みが必要なのではないか。市と連携して事業を進めている立場として、市民にインターバル速歩の良さを周知してきている。ある程度長い期間実施したうえで結果をみる必要があると思うので、引き続き実施してもらいたい。

(事務局) インターバル速歩については、10数年継続し定着化を図ってきたが、参加者が伸び悩んでおり、機器の利用料等が高額で参加者負担や市の財政負担が大きいことが課題となっているために見直しを図っていききたい。来年度は「歩行ケア」という事業を新たに導入する予定であるが、インターバル速歩も専用の機器ではなくスマホのアプリの開発も進めていると聞いているので、一旦休止はするが開発状況を注視していききたい。

(委員) 「食育」という言葉は、使う人の立場によって定義が異なると感じている。総合計画では「食育」をどのように定義しているのか。

(事務局) 食育は生きる上での基本であり、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けている。

(委員) 食育の場である幼稚園・保育園・小学校では、食事を提供する側の視点と、食べる側の視点の両方を意識しながら、食に対して意識を高めるための教育が行われている。一方で、医療現場における食育は栄養に特化していると感じることがあり、食育の定義にも幅がある。「食育」という言葉は、一般の市民がイメージしやすいようにもう少し具体的に定義して計画に記述したほうが良いと考えるがどうか。

(事務局) 平成30年度に策定した「上田市食育推進計画」では、食育の基本理念や食の大切さをイメージしやすいように具体的に記述している。現在、食育推進計画に沿って取り組みを進めているところであり、今後も食に対する市民の意識向上に向け計画の啓発に努めたい。後期まちづくり計画の記述については検討したい。

(委員) 自殺予防について、大人と子どもとでは自殺に至る事情が異なり、子どもの自殺予防は教育との関係が深いと思うが、関係機関との連携はどうなっているか。

(事務局) 昨年「上田市自殺対策計画」を策定し、関係機関と連携して取り組みを進めている。

(委員) 後期まちづくり計画への記述において教育分野との整合は図られているのか。

(事務局) 後期まちづくり計画において、教育分野との連携が明確になるように記述を検討したい。

○4-1-2について

(委員) 在宅医療を推進してもらいたい。

(事務局) 医師会とも連携しながら積極的に取り組んでいきたい。

○4-1-3について

(委員) 市から母親に高齢者実態調査の用紙が郵送されてきたが、調査項目が多すぎて回答の記入に苦労した。もう少し回答者の立場に立った調査ができなかったのか。

(事務局) 今回の実態調査は、第8期上田市高齢者福祉総合計画の策定に向けて実施したものであるが、国が全国統一の調査項目を設定しており、さらに県独自の調査項目が加わって項目が多くなった経過がある。

(委員) 調査結果の詳細なデータは、このような審議会等で報告する予定はあるか。

(事務局) 高齢者福祉総合計画を審議する介護保険運営協議会には詳細なデータを提供し、審議に活かしてもらうこととなっている。

○4-2-1について

特になし

○全体を通じて

(委員) 地域医療について、上田地域の医療の目指すべき方向は計画にあるとおりで全く異論がないが、実現は非常に困難な状況である。最大の課題は医師不足であり、医療関係者も努力しているが医師確保は非常に厳しい状況である。現状では、佐久市、長野市、信州大学との連携を強化するほうが効果的ではないかとの意見もある。加えて、看護師や介護士等の専門職の確保も大きな課題となっており、医療系施設全般に運営が厳しい。在宅医療に関しても、医師等の医療従事者が相当数確保できなければ実現不可能であり、現状では非常に厳しいことを理解してもらいたい。

(4) その他

特になし

4 事務連絡

・次回の日程、場所、協議内容を説明 令和2年1月23日(木) ひとまちげんき・健康プラザ

5 閉会